

5. 今月のトピックス 「天敵について」

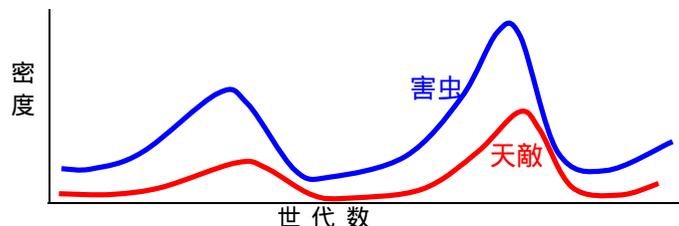
1) 天敵の原理

(1) 自然環境下での天敵

野外では、害虫が植物を完全に食べつくすと、餌がなくなってしまう。天敵も害虫を一匹残らず食べつくすと、次の餌はなしです。だから自然環境では、植物・害虫・天敵がバランスよく共存しているのです。

(2) 天敵の力の限界

天敵は必ず害虫の後追いをするように増減します(下図)。そのため天敵が害虫を制御できるほどに増加する頃は、害虫もそれなりに増えて食害が多くなっているわけです。



(3) 天敵の利用

農地では、自然の状態では天敵が害虫を抑える頃は、もう農作物に被害が発生した後です。そこで、天敵を害虫防除に利用するためには、上図のような害虫と天敵の自然のバランスを人為的に崩す必要があります。天敵を保護したり外部から導入するという技術です。

2) 天敵利用のポイント

(1) 導入目的をしっかりと決めよう

天敵は高価な資材です。それなりの目的意識を持っていないと、時には損をした気分になってしまうかもしれません。イチゴはミツバチに影響の少な

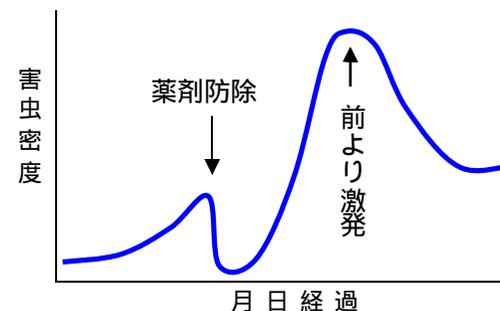
い化学農薬を使っており、天敵(カブリダニなど)を導入しやすい栽培環境にあります。またイチゴ狩ハウスならなおさらです。化学農薬が使えないから天敵を使うという目的なら、天敵の導入に多少の費用がかかっても納得できるでしょう。

(2) 生物農薬としての天敵の導入時期に注意する

農地では、天敵が自然増殖するのを待っていては、農作物の被害が先に出してしまうので、初めから人工的に天敵密度を高めてやればよい理屈です。このため導入時期は、多発してからでは意味がありません。

(3) 天敵に不利な農薬はむやみに使わない

合成ピレスロイド系の殺虫剤は、多発してしまった茶園のハダニにもよく効きます。しかし、その後ハダニが以前より激発することがあります。この現象はリサージェンス(下図)と呼ばれ、ハダニよりも天敵の方に農薬が強く効いてしまったためといわれています。



(4) 指導を受けよう

初めて天敵を使う場合は、失敗を避けるため普及指導員、営農指導員等に相談しましょう。